



JEG ニュースレター 154号

www.jegschweiz.com

2016年 1月29日発行

小さな証

突然ガンに侵され死さえ覚悟した筆者が、不思議な導きでイエス様に出会うまで。 P2

低くなったイエス様

クリスマス礼拝の帰り道にある若者の前に天使が突如出現、ユースの脚本によるクリスマス劇。 P3

年間目標聖句

新会堂で初めての新年礼拝において、マイヤー牧師は年間目標聖句をヘブル人への手紙から選び説教をされました。 P3

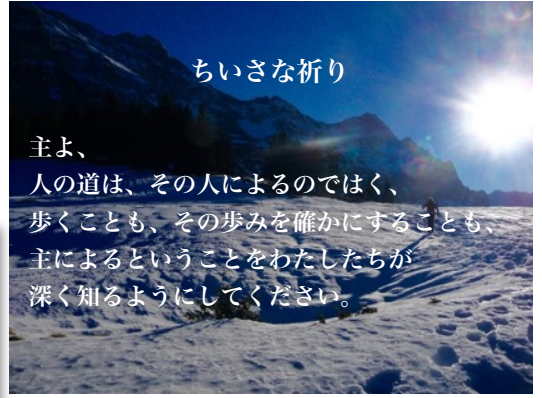
三人衆からの便り

7年前、スイスJEGの常連だったフライブルグ（学生）三人衆はいま日本で何を？祖国日本からの便りです。 P5



ちいさな祈り

主よ、人の道は、その人によるのではなく、歩くことも、その歩みを確かにすることも、主によるということをおぼわしたちが深く知るようになさってください。



「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」

2016年、スイスJEG年間目標聖句： ヘブル12, 2a

昨年の会堂移転という大きな転機をバネとして、スイスJEGは、新しい年も、主の導きと恵みのなかで、神のみ国を待ち望み、主の栄光を現すため、御心と導きを求めながら、心合わせて一步一步前進したいと願っています。



ちいさな証

遠すぎる旅はない

ヘス・マティアス

スイス日本語福音キリスト教会

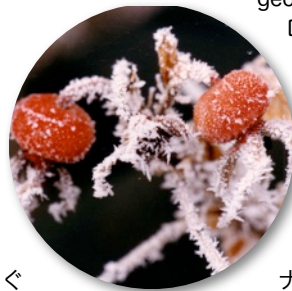


In der Rückschau hat sich dies am 23. April 2014 schlagartig geändert. Ich musste auf die Toilette und sah, dass mein Urin rot war, also Blut im Urin war. Kein gutes Zeichen. Ich ging so schnell wie möglich zum Arzt.

Die Untersuchungen bestätigten meine Befürchtungen, dass mit mir etwas gar nicht mehr so war, wie es sollte. Die Diagnose lautete auf Nierenkrebs. Am 5. Mai 2014 wurde mir dann die rechte

Niere entnommen. Gott sei Dank wurden bei mir bisher keine Metastasen festgestellt, d.h. ich musste mich weder einer Chemo- noch einer Bestrahlungstherapie unterziehen.

Vor der Operation und im Spital hatte ich dann genügend Zeit, mir Gedanken über mein Leben zu machen und musste mich auch mit dem Thema Tod auseinandersetzen. Nach neun Tagen im Spital konnte ich nach Hause zurückkehren. Gleich zu Beginn bekam ich Besuch von Martin Meyer, dem Pastor der japanischen evangelischen Kirche in Uster (jetzt Dübendorf). Er sprach mit mir im wahrsten Sinne des Wortes über Gott und die Welt und schenkte mir ein Büchlein mit dem Titel „Wenn kein Weg zu weit ist“, einer Geschichte vom äthiopischen Finanzminister, der nach Jerusalem reiste, weil er von Jesus gehört hatte und mehr über ihn erfahren wollte (Apostelgeschichte Kap. 8). Zuerst legte ich dieses Büchlein zur Seite, doch irgendwann kramte ich es wieder hervor und begann zu lesen. Die Geschichte faszinierte mich und ich wollte mehr erfahren.



振り返ってみますと2014年4月23日に私の人生は変わりました。トイレで気付いた事ですが、尿が赤く染まっており、ただ事ではないと思い、すぐに医者に行きました。検査の結果は私が恐れていたもので、そうでない事を望みましたが、診断の結果は腎臓癌でした。2014年5月5日に右の腎臓を切除する手術を受けました。幸いなことに転移はありませんでした。抗癌剤や放射治療はしなくても済みました。

手術前の入院中に十分な時間があつたため、自分の人生について思い巡らし、死についても考えさせられる時でもありました。

9日間に渡る入院生活後、自宅に帰る事ができました。帰宅後すぐにスイス日本語福音キリスト教会（現在はDübendorf, 以前はUster）のマルチン・マイヤー牧師が自宅へお見舞いに来てくださいました。一般的なことや、神様についてのことを話しました。そしてタイトルが「Wenn kein Weg zu weit ist」「遠すぎる旅はない。」という小説をプレゼントして下さり、その物語はイエス・キリストのことを耳にしたエチオピアの宦官がもっとイエスの事を知るためにイスラエルに旅をしたという話でした。（エチオピアの宦官の話、使徒8章に基づく伝道的小説）最初はこの小説を読まずに放ってありましたが、ある時再び取り出して読み始めました。物語は私を魅了し、もっとこのことについて知りたいと思いました。

妻の明美がいつも通って参加しているクローテンのペンテコステ教会のディック・フリッツ牧師から電話がありました。昼食の約束を取り、彼はイエスについて話をしてくださいました。

Kurze Zeit später rief mich Fritz Dick, der Pastor der Pfingstgemeinde in Kloten, wo Akemi einige Zeit regelmässig in den Gottesdienst ging, an. Wir verabredeten uns für ein Mittagessen. Er erzählte mir über Jesus. Im September 2014 besuchte ich dann, das sogenannte Life-Seminar, das von der freien evangelischen Kirche Kloten und der Pfingstgemeinde gemeinsam organisiert wurde (und immer noch wird). Es geht dort darum, an fünf Abenden Menschen, die sich grundsätzliche Gedanken über das Leben (und den Tod) machten, den biblischen Kontext aufzuzeigen.

Bereits vorher hatte ich damit begonnen, in der Bibel zu lesen, etwas, was mir kurze Zeit vorher nie in den Sinn gekommen wäre. Weil meine Bibelkenntnisse nicht viel über Null lagen (ich wusste, dass es ein altes und ein neues Testament gibt und ich kannte die Weihnachtsgeschichte), entschloss ich mich, die Bibel von vorne bis hinten zu lesen. Dies habe ich in der Zwischenzeit geschafft, in gut einem Jahr. Ich durfte feststellen, dass die Bibel nicht langweilig oder altdemisch, sondern höchst spannend und vor allem sehr aktuell ist.

Nun war für mich klar: Am 23. April 2014 hat Gott bei mir angeklopft, um mir zu sagen, dass er da ist und dass ich mir überlegen sollte, in Zukunft zu ihm hingewandt und nicht mehr von ihm abgewandt durchs Leben zu gehen. Er hat mir das Herz geöffnet und mit seinen „Boten“ Martin Meyer und Fritz Dick dafür gesorgt, dass ich meine Umkehr einleiten konnte. Wahrscheinlich haben die meisten Christen, die erst im Erwachsenenalter zum Glauben kommen, irgendein Schicksalsereignis, das sie in der Folge umkehren liess.

2014年9月にクローテンの自由福音教会とペンテコステ教会が共同作業で企画しているライフセミナーに参加しました。5日間に渡り、人間の生と死についての基本的な考え方を聖書を通して学びました。

すでに聖書は読み始めていましたので、以前とは異なって短期間の間で理解する事ができました。私の聖書の知識はほとんどゼロに近いのですが（聖書には新約聖書と旧約聖書がありクリスマスのお話もある事くらいは知っていましたが）、聖書を最初から最後まで読むことを決心しました。約1年かかりましたが読むことができ、そこで確信したのですが、聖書は退屈でも時代遅れのものでもなく、まさに面白くて最新の書物でした。

確かに言える事は、2014年4月23日に神様はご自身を知らせるために、また私自身を考えさせるために、私の心をお叩きになった事で、将来神様から背を向けて歩むのではなく、神様に立ち返る人生を歩むことを示される為でした。神様は私の心を開き、神様からのメッセンジャーであるマルチン・マイヤー牧師とフリッツ・ディック牧師を準備され、私は生まれ変わる事ができました。

成人になってから信仰を持ったほとんどのクリスチャンは、何か運命的な出来事を通して変わる事ができたのではないのでしょうか。2015年8月23日に私はクローテンのペンテコステ教会で洗礼を受けました。洗礼式に証しをしましたが、私の望んでいる夢は、年をとり私の孫に2014年の4月23日は不幸な日ではなくて、その正反対の幸運日であり、神様は私の人生を完全に変えられた事を話してあげることです。



1、新しい会堂において初めての
のスイス日本語福音キリスト教会
クリスマス伝道礼拝は、12月
13日に102名の参加者を得て
行われ、私たちの救い主の降誕
をお祝いいたしました。

メッセージに先駆けて、ユース
の脚本／演出による”低くなられ

たイエス様”が、CSとユースによって演じられました。クリスマス
礼拝の帰途、若者が突然現れた天使によって2千年前のバツレヘム
に案内されるというストーリーです。この劇は
www.youtube.com/watch?v=trm_16C5wxs で全部ご覧いただけ
ます。

マイヤー牧師の”神の栄光が周りを照らした”は、神が歴史に介入
し人類の歴史を変えることになる救い主の誕生を知った羊飼いに現
れる神の栄光とは何か、易しく解き明かしたメッセージ（日独語）
はスイス日本語キリスト教会の説教専用のサイトでお聴きいただけ
ます。<http://jeg.meielisalp.ch> また、クリスマス礼拝のショート
ビデオ（5分）はwww.youtube.com/watch?v=CfFD1Km9FuU
でご覧いただけます。



2、1月10日の新年礼拝において、2016年のスイスJEG年間目
標聖句”「信仰の創始者であり、完
成者であるイエスから目を離さな
いでいなさい。」ヘブル12：2a
から”目標を目指す信仰生活”を
テーマにメッセージをされました。
この説教はビデオでご覧いただけ
ます。[www.youtube.com/
watch?v=yXqk7p2jWQs](http://www.youtube.com/watch?v=yXqk7p2jWQs)



3、第23回・スイス日本語福音キリスト教会の総会が、1月24日
（日）13時から14時15分まで、デューベンドルフの新会堂で開かれ
ました。「スイスJEG2015年の歩み」を振り返りながらの活動報
告により、主の体である教会の礼拝が、実に多くの兄弟姉妹の尊い
奉仕によって守られてきたことを覚え、原会長から深い感謝の念が
伝えられました。決算報告、本年度の活動計画、2016年予算案な
どが承認されました。また、教会の運営の重責を負う役員が選出さ
れました。その結果、原憲二兄（会長）、松林幸二郎兄、フォンブ
ランタ・コンラディン兄、今村泰典兄の留任が承認され、この一
年、霊的な役割をも担うことになりました

4、1月24日の礼拝後の愛餐会のなかで、“スイスJEG2015年の
歩み”が上映されました。会堂移転という大きな事業を主が導き、
教会に子供と若者が増え、成長させてくださったことを映像を通し
て再認識し、主に栄光を帰しました。この20分のショートムー

ビーはwww.youtube.com/watch?v=HIX8DrdvThYでご覧いただ
けます。

5、新会堂で新しい年を迎えたのを機に、スイスJEGのドイツ語なら
びに英語のホームページのデザインを刷新いたしました。是非一
度訪れていただき、ご意見やご感想、また、こんなサイトやコンテ
ンツがあれば便利だがなどのアイデアがありましたら、英語HP管
理者のトムセン・ハンス兄、ドイツ語HP管理者の中村有志兄にお
知らせください。新HP独語：<http://schweizjeg.jimdo.com/>
英語：<http://swissjeg.jimdo.com/>この新HPはiPhoneやiPadでも
ご覧いただけるようになりました



6、岡山敦彦牧師（大分恵みキリスト教会）が
執筆された”信仰の目で読み解く絵画”シリーズ
の第5巻目が、この度のいのちのことば社から発
刊され、スイスJEG文庫にも一冊寄贈されまし
た。ティツィアーノ、カラヴァッジョ、ルーベ
ンスといった巨匠の作品が聖書的な視点から生
き生きと小説のように解説されています。御本
に添えて岡山牧師の手紙も届きました。

「信仰の目で読み解く絵画」が、貴教会の図書棚に置かれてい
るかと思います。

私はヨーロッパの画家たちが描いたキリスト教絵画に関心を持つよ
うになり、1冊だけのつもりが昨年末には5冊目を出版いたしました。
神様が、自分でも全く気付くことのなかった賜物を与えてくださ
っていたことを心から感謝しています。

ルネサンスやバロック時代の絵画は、キリスト教信仰抜きに語るこ
とはできません。この二つの時代に、なぜこれほど多くのキリスト教
絵画が描かれたのかは、当時のキリスト教の歴史を学べば分かること
です。当時の絵画の発注者はカトリック教会、王侯貴族、富裕な市民
階級でした。彼らが当時の芸術家を経済的に支えて育て、絵画の発注
をすることで、ヨーロッパ芸術の華が咲きました。絵画を学ぶこと
は、ヨーロッパの歴史、キリスト教の歴史そして芸術家たちの歩んだ
人生を知ることであります。そして、彼らの絵画が、彼らの信仰告
白であったと知れば、私たちが彼らの絵画を見る姿勢もおのずと違っ
てきます。

ヨーロッパに住んでおられる方たちは、素晴らしい絵画芸術等の世
界に置かれています。遠く日本にいる私からすれば、うらやましい限
りです。

一昨年、ヨーロッパキリスト者の集いに参加させていただきまし
た。できれば、2017年のルターの宗教改革500年には、皆さん
とお会いしてキリスト教絵画を共に学ぶことができると願っていま
す。
岡山敦彦

7、第33回ヨーロッパ・キリスト者の集い（7月27日-31日）の第
2信が2月中旬発行の予定で編集中です。お申し込みの受付は、3
月1日から21日までです。欧州日本語教会／集会を通してお
早めにお申し込みください。また、第2信の発行に伴って、ヨー
ロッパ・キリスト者の集いのオフィシャルHPに、第33回の集い
に関する全ての情報が開示される特別サイトが開設される予定です。

8、オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェ
ンコ・ペラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からの
Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バル
セロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語
キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、
ルーミア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・
プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通
信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”、ローゼンク
ランツNLが届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連
絡ください。

日出ずる国から

主の愛に動かされて

大阪府は堺市の
唄野隆、絢子ご夫妻から

春に帰国しました。

横浜国際バプテスト教会の
加藤雅也・智美（さとみ）ご夫妻から

素晴らしい主に支えられ

神奈川県は川崎市の
大八木精一・タビタご夫妻から



私どもの年齢になると、年末に「喪中につき・・・」というがきが数多く届くようになります。その中で、人に知られていなかった主にある善き業が明らかになる人や、主と共に歩んだ人生に満足されている御姿や復活の主との出会いを喜んで待ち望んでおられる様子を見せてくださり、「**主にあって死ぬ者は幸いである**」（黙14：13）というみことばの御真実を証してくださる方々が何人かおられたこと思い返し、御名を崇め、希望と喜びを覚えました。

私たちの教会ではようやく新会堂が完成し、今は、新しい会堂で、礼拝を守り、地域の人々をお招きして主を仰いでいます。会堂建築の過程ではいろいろ心の痛むこともありましたが、主はすべてのことを益と変えてくださる御方であることを信じて、自らを省みつつ、主の恵の御業を待ち望み、前進し続けたいと思っています。

世界もいろいろな問題を抱えていますが、私たちの国は、国威を高め自己を主張する70年の後、へりくだって平和を求める70年を過ごしましたが、再び自分を高めようとする動きを見せはじめているように思います。

新しい年のはじめ、主を前にし、自分の罪を認め、へりくだって悔改め、主の御愛に触れ、その御愛に應えて主を恐れ、主の愛に動かされて、人々を愛する道に導いてくださるよう、主を仰いでいます。主の御祝福を祈ります。

私達は横浜国際バプテスト教会のメンバーとしていろいろな国々のクリスチャンと付き合いながら日本での宣教を続けています。昨年春に5年間のマレーシア派遣を終了し、もう手で食事をする事もない、アザーンの音が聞こえることもない別世界に帰って来ました。

雅也は横浜市にある職場に復帰しました。智美は、高齢の両親の世話を弟と一緒にしています。そして久しぶりの日



伊勢湾の日の出

本なので友人達に会う機会に恵まれました。5月には、雅也も参加して智美の高校時代の同級生と金沢文庫見物をし、長崎の多良見キリスト教会からの友人にも会いました。6月にはマレーシア人と日本人のカップルのカトリック教会での結婚式に参加し、7月と9月と11月には前職場があった東南アジアからのお客さん達と日本料理を堪能し、8月に館山の海に行き、10月に札幌バプテスト教会に行き長崎時代の牧師夫妻に会いました。

雅也は5月と11月に大学関連の40周年記念行事で沖縄に行きました。娘達はそれぞれの大学院で勉強しています。今年も何方と再会できるか楽しみです。

我が家はみな元気に新年を迎えることができました。昨年の夏は、初めて家族四人でスイスへ行くことができたことを感謝しています。主人は13年ぶりのスイスでした。たくさんの方々にお会いすることができて、ウスターでの最後の礼拝にも出ることができて、とても充実した夏でした。

今年の春、長男の献が中学生になります。主人も以前通っていた地元の中学校で、家から小学校よりも近いのですが、様々な面で献にとっても、母にとっても、新しい体験になります。

制服も初めてですし、学校生活や部活、勉強の中身やテストの進め方、親子ともに新しいことに早くなれ、献は良いお友達や良い先生に恵まれますようにお祈りしています。そして、教会から離れることのないように、できれば日曜日の午前は空くようにしたいと思います。熱はあと二年間、小学校に通います。

主人は、仕事が相変わらず忙しくて、一日12時間以上働くのは珍しくありません。そういう中、健康も信仰もダメージを受けないように祈っていただければ幸いです。

私は、家庭以外に、教会や小学校、リーベンゼラミッションの事務所(月二回)などで忙しくしています。無理をせずに落ち着いた生活をし、良い証人として用いられますようにと願っています。

「主は情け深く、正しい。まことに、私たちの神はあわれみ深い。」詩編116：5 皆様も、この素晴らしい主に支えられ、今年も導かれますようにお祈りします。

神様は真実なお方

東京都は東久留米市の
シグリスト ウルス・美智子ご夫妻から



ハレルヤ！主の尊い御名を賛美します！スイスJEGのみなさん、新年あけましておめでとうございます！今年も恵み豊かで真実な神様がみなさんと共におられますように、お祈りします。

新しい会堂での礼拝はどうですか？今年は夏にスイスに帰省するので、みなさんと新しい会堂で礼拝をもてることを楽しみにしています。

シグリスト家は昨年8月9日に次女、真(まこと)を授かり四人家族になりました。出産前後の二ヶ月間、スイスからウルスの母ロッチェが助けに来てくれ、東京で無事に出産することができました。長女、恵(めぐみ)の時と違い、1時間5分というスピード出産で産後の回復も速く、本当に神様に感謝です。

恵は2歳になり、歌ったり踊ったりするのが大好きで、まだまだ赤ちゃんですが、頑張ってお姉さんになろうとしています。神様が与えてくださった子どもたちが神様を知ることができるように、親として良き模範であることができますように。御言葉が良い地に落ちることができるよう、親としてたっぷりの愛を注げますようにと祈る毎日です。

今年はキリスト者の集いが南ドイツでスイスJEGの主催で行われますね。フライブルグ留学中に参加したフィンランドでの集いからもう7年も経つのかと思うと、この7年でキリスト者としてどれだけ成長できただろうと。。。反面、神様が今も私を捕らえてくださっていることに感謝ですし、やっぱり神様は真実なお方だと確信します。

キリスト者の集いの準備中、最初から最後まで、神様が真ん中にいて祝福してくださいませようお祈りしています。シグリスト家も参加できますよう、ウルスの仕事の調整や飛行機の手配ができますように祈っています。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています！

僕の大きな喜び

宮城県は利府町の
菊地祥彦・恵美ご夫妻から



みなさん、こんにちは！早いもので、2016年になってもう一ヶ月が経ちますね。みなさんはどんな思いを持って新年を迎えられたのでしょうか？僕は今年、楽しみにしていることがいくつかあります。その一つは、ヨーロッパキリスト者の集いに参加することとJEGの日曜礼拝に参加することです。今、そのためにスケジュールを調整しているところです。

さて、この場をお借りして、僕の近況をみなさんに分かち合わせてください。



フライブルグ
三人衆から

写真：2009年8月9日、集いの後
フィンランド、ロバニエミにて

現在も神学生としての訓練を受けながら、特に青少年に対するミニストリーに携わっています。テモテ書やテス書に書かれている牧会者としての条件を満たすことが前提ですが、2016年度をもって神学生を卒業する予定です。

机の上での勉強、また、実際にミニストリーに携わりながら体験的な学びをしていますが、学びを進めつつ働きの実りを見れることは僕の大きな喜びです。去年は1名の若者(高校生)がバプテスマを受けました。

また、教会で行っている日本聖書学院(JEGでもセミナーを開催された岡田大輔先生が設立された神学校)の学びに「聖書をもっともっと学びたい!!」という数名の若者たちが受講生として学びに参加します。神学校のクラスは現在、僕の所属するオアシスチャペルが運営する「森郷キャンプ場(宮城県利府町)」の礼拝堂で行われています。

願わくば、この夏にみなさんにお会いできますように！

忘れたことのない希望

愛知県は安城(あんじょう)市の
河尻直・友紀乃(ゆきの)ご夫妻から



スイスJEGの皆さん、新年あけましておめでとうございます。そして、大変ご無沙汰してしまい、申し訳ございません。いつも松林さんがニュースレターを送って下さいますのに、ずっとお便りを出すことができず大変心苦しく思っていました。根気強くお便りを下さった松林さんに心から感謝します。

私は、2014年3月に結婚しました。そして、昨年7月には長男の「実(みのる)」が誕生し、家族3人楽しく過ごしております。また、一昨年、大学院修了後から勤めた中学校教諭の仕事で退職しました。そして昨年からは新たな仕事に就くことができ、新たなスタートを切っています。

お便りを出せない間にとっても色々なことがありました。正直に申し上げると、仕事を辞めたことも決して前向きな理由ではありませんでした。しかし、どんなに辛さを覚える時でも、「神様が私に良くしてくださる」という希望を忘れたことはありません。

「きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。」マタイの福音書6:30

この御言葉がいつもともにありました。毎日に、本当に感謝しています。

今年のヨーロッパキリスト者の集いは、スイスJEGの主催で開催されると聞いております。菊地夫妻やシグリスト一家も参加予定ということもお聞きし、是非私たち一家も参加したいと思いましたが、残念ながら今年はそれができません。しかし、またいつか必ず神様がチャンスを下されると、確信しています。その日を楽しみにしております。集いに向けての準備が、祝福されますようお祈りします。



米国、シンガポール
そして英国から

主の体を建てる
米国はカリフォルニアは
清水摂宣教師から



明けましておめでとうございます。アメリカのカリフォルニアから世界中にいらっしゃいます読者の皆様、新年のご挨拶とともに、主の祝福を送らせていただきます。

私の奉仕しておりますジャバニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ネットワーク (JCFN) は、海外で信仰を持たれたり、求道を始められた方々が、帰国後も神様と共に生き生きと歩まれ、主の恵みと愛をしっかりと受けられ、それを家族、友人、周りの人々に流し、主の身体を建て上げられるようにフォローアップや様々な大会、集会を通して働いております。

昨年度の大きな恵みは、グローバル・リター

ニーズ・コンファレンス (通称グリコ) を秋のシルバウィー



GRC : 山梨県富士吉田市

クに富士山の麓で開催したことです。約450名のヨーロッパ、アジア、北米、オセアニアなどからの帰国者が参加し、励まされ、力づけられた祝福の時となりました。

JCFNは今年でミニストリー26年目を迎えますが、25周年記念修養会をハワイで行う予定です。北米では、帰国する人たちが帰国前の準備のために修養会やセミナー、フォローアップを継続的に提供していきます。日本では、グリコを経て、各日本の地域で帰国者が励まされ、また、帰国者が日本の教会、また、彼らの家族、友人、社会の励ましとなることのできるように仕えていきたいと願っています。

ヨーロッパの邦人宣教とまた帰国者ミニストリーが祝福されますように、お祈りしています。JCFNの働きのためにもぜひお祈りいただけましたら感謝です。

正夢になったこと
アジアはシンガポールの
松本章宏JCF牧師から



2012年7月に渡り鳥夫婦としてご奉仕させていただきました松本章宏・正子です。その後、

2013年3月からシンガポール日本語キリスト教会の牧師として働いてきました。2019年3月まではここでの働きを続けさせていただきます。

この教会の牧師になる時にいくつかの夢を見ましたが、そのうちの 하나가教会の皆さんをイスラエルにお連れすることでした。2014年10月にイスタンブール経由で第1回が実現し、17名が参加し、祝福に満ちた旅となりました。今年4月にはアンマン経由で第2回を行います。20名のグループになりそうです。その旅行に引き続き、1ヶ月間のリフレッシュ休暇をいただけることになりましたので、また中東と日本の各地を巡りたいと思います。



二男の潤の卒業式 (ミシガン)

もう一つの夢は、ハーベストタイムの聖書塾を開催することでした。難しいかなと思っていたところ、フェイスブックでミラノで開催されたことを知り、週末を2回使った形で実施できることが分かり、呼びかけたところアジア各地から26名が受講されることになりました。いよいよ今週の木曜日に中川健一先生をお迎えします。これからの3年間で教会の聖書力を上げることが私の願いです。

主の恵みに満ちた3年間でした。主は各地から良いクリスチャンを私たちの教会にお送りくださり、40名の兄弟姉妹が入会され、ともにキリストのからだを建てる業に参加していただきました。その他に21名の方々が洗礼を受けられました。シンガポールは移動が多く、たくさんの方々がまた次の地へと旅立って行かれますが、送別式という言葉を派遣式に変えて、前向きに各地の祝福のために送り出しています。これからヨーロッパとアジアの絆もさらに強められることを祈っています。

創立10周年に向かって
英国はエジンバラの
バク・ジェフン牧師から



日本語聖書を分かち合う小さな集まりから始まったエジンバラ日本語教会は、聖書を聖徒の信仰と生活の唯一の規則とし、全てのみことばは聖霊の靈感によ

て書かれた言葉で間違いがなく、神様の救いの計画の最終的な啓示であることを信じて、神様中心、みことば中心、恵み中心の信仰の姿を守るため集まっています。

2007年9月23日に捧げられた最初の礼拝は、喜びと感謝の賛美で満ち溢れた霊的な礼拝でした。その最初の礼拝から8年——この教会の歴史は、聖霊様が一人一人の聖徒を通して書いてくださった恵みの歴史です。次々に出会う新しい決心者たちを通して神様の不思議な御業に触れ、みことばにあるような「知らない、理解を越えた大なる事」(エレミヤ33:3)にも度々満たされました。



www.jcedinburgh.org/index.html

エジンバラ日本語教会は、初代教会の姿に基づいてイエス・キリストの恵みの中で成長し、またその成長の結果結ばれた実を世の中に伝えるという、2つの目標のため活動しています。礼拝は、エジンバラ市内中心のKirk O'Fieldという元々教会であった建物を借りて、日曜日午後2時から行っており、その後食事を囲んでの交わりの時間と、(隔週で)その日のメッセージに基づいた分かち合いの時間があります。礼拝の参加者・奉仕者は様々な国籍の人たちから成り、毎週の礼拝には必ず日本語から英語への同時通訳が付きまします。規模は小さくとも恵みに溢れ、これまでバイブルスタディ、日本語クラス、音楽会、リトリートなど礼拝以外の活動も積極的に行ってきました。

ここまで8年間神様の恵みに導かれて歩んで来たエジンバラ日本語教会は、聖徒同士お互いに支え合い、主の恵みを分かち合いながら、聖霊様の導きだけを真摯に頼り、神様の栄光と喜びになるために一人一人が熱い信仰を守りながら、創立10年に向かっていきます。イギリスを訪れたら是非この教会に足を伸ばし、神様がエジンバラに蒔かれた恵みの種をご覧ください。